

スペシャルオリンピックスボランティア活動の個人的な感想

長谷川 栄一

1日目は日進市にある愛知学院大学の水泳競技場でボランティア活動をしてきました。救護班には、肩を痛めた人（医師が湿布を貼って終わり）と、爪が痛くて来た人（医師が爪を切り終わり）の2人でした。コンディショニングコーナーは0人でしたが、留守にしていたことも多かったため、ひょっとするとその間に来ていたかもしれません。ドクターは、名大のリハビリ科の先生（統合ヘルスケアの佐藤先生を良くご存知でした）と、お子さんが知的障害の先生でした。どちらも、気さくな先生でいろいろなお話しをしました。

2日目は、瑞穂競技場で、到着早々、救護に足関節を傷めた選手が来て、会員外の大島先生が対応をされました。対応する前に、大島先生とどのように処置するかを検討して、十分任せられると判断してお任せしました。この選手は100m女子で1位になりました。

コンディショニングコーナーでは、2名の選手を治療しました。内1名は、前日に兎山先生の治療を受け、2日目も試合前にみえました。ローラー鍼と銀古針で痛みを軽減し、秀山先生にテーピングをしてもらいました。

この選手も400mで、1位になりました。競技後、痛みが酷くなったとのことで再度来られ、アイシングをしっかりととして、その後、キネシオテープをしたのですが、痛みの変化がないため、牧先生に別のテープで固定してもらったところ、痛みがなくなったとのことで笑顔で帰って行かれました。



最後に、大会運営については、事務局そのものが不慣れな感じで、開会前からいろいろ問題もありました。しかし、商業ベースにのらず、一般のボランティアの方々だけでみんなで力を出し合って成し遂げた大会である事を考えると、たいへん素晴らしい大会であったと思います。この様な機会を与えていただいたSO事務局のスタッフの方々、八塚先生に感謝いたしております。